

半田市 **蔵出し情報** 報道機関提供資料

| | |
|------|-------------------------------------|
| 問合わせ | 新美南吉記念館 館長 遠山 光嗣 0569-26-4888 |
|------|-------------------------------------|

令和2年10月1日提供 (事前情報・事後情報)

| | |
|----------------|--|
| 名称 | 企画展「児童雑誌『カシコイ小学生』に 集った作家と新美南吉」 |
| 日時 | 9月19日(土)～12月20日(日) |
| 場所 | 新美南吉記念館(半田市岩滑西町1-10-1) |
| 観覧料 | 常設展示の観覧料(高校生以上220円)でご覧いただけます |
| 内容 | <p>◎昭和7年末から10年頃に刊行されていた児童雑誌『カシコイ小学生』を取り上げます。同時期、東京外国語学校に通っていた新美南吉の作品を、掲載していた雑誌で、当時の南吉にとっては大切な作品発表の場でした。この雑誌には他に、浜田広介や小川未明の童話、北原白秋の童謡、初山滋の童画など著名な作家の作品も多く掲載されていました。</p> <p>誰もが知る広介の代表作「泣いた赤おに」の初出誌でもあります。</p> <p>企画展では、『カシコイ小学生』を始め、南吉の自筆原稿や日記、同誌に集った作家らのプロフィールを紹介するパネルなどを展示します。『カシコイ小学生』と南吉との関わりや、同誌がどのような雑誌であったかを紹介します。</p> <p>◎近年、精文館の創業者遺族が挿絵原画100点を保管していることが分かりました。主に画家鈴木寿雄の手によるもので、『カシコイ小学生』に掲載されたことが確認できた原画の中から20点を借用し展示します。(中部地方初展示)</p> <p>◎10月4日(日)、24日(土)、11月8日(日)、23日(祝)、12月13日(日)は、学芸員が企画展を解説するミュージアムトークを実施。</p> |
| 担当者 情熱メッセージ | 当館では『カシコイ小学生』を恐らく国内で最も多い27冊収蔵しており、企画展ではそれら全てを展示しています。 また、描かれてから80年以上経っているとは思えない色鮮やかな原画も、多くの方にご覧いただきたいです。 |
| 別紙 | 有(企画展チラシ) |
| 写真 | 有 |

半田市企画課広報情報担当
0569-84-0603



●**精文館**／大正3年、奈良県出身の北村宇之松が創業しました。主力は参考書でしたが子ども向けの書籍も手掛けており、『カシコイ小学生』は昭和7年11月に創刊されました。当時は小学館の学年誌が売り上げを伸ばしており、多くの出版社が同様の子ども向け雑誌を刊行していました。精文館も浜田広介や北原白秋、初山滋など、当時第一線で活躍していた作家、画家らを集め、小学1、2年生向けに『カシコイ一年小学生』『カシコイ二年小学生』を出版しました。※終刊時期は不明。

●『カシコイ小学生』掲載の南吉作品／

現在、同誌に掲載されたことが分かっている南吉作品は、「アメダマ」「子供のすきな神さま」「タレノ カゲ」「アシ」「ウラレテ イッタ クツ」「ゲタニ バケル」の6篇です。「タレノ カゲ」以下4編は、長年、南吉の死後に出版された幼年童話集が初出であると考えられていましたが、当館が『カシコイ小学生』を入手、または個人や専門図書館などから借りるなどして調査した結果、同誌に掲載されていることが確認でき、南吉の生前、既に発表されていたことが判明しました。

●『カシコイ小学生』の挿絵原画／

平成30年、精文館の創業者北村宇之松の従兄弟で、同社で編集者をしていた藤本卯一の孫にあたる行司千絵氏（京都新聞記者）が、精文館と『カシコイ小学生』に関する原稿執筆のために行った調査の過程で、宇之松の次女、北村好子さんと、行司家とで100点の挿絵原画を保管していることが分かりました。この企画展では、好子さん所有の原画から20点をお借りして展示しています。

●『カシコイ小学生』に集った作家

・浜田広介（明治26年～昭和48年）／作家

山形県東置賜郡高畠町出身。日本児童文芸家協会初代理事長。小川未明、坪田譲治と共に日本を代表する童話作家として一世を風靡し、「日本のアンデルセン」とも呼ばれました。

代表作は「泣いた赤おに」のほか、「椋鳥の夢」「よぶこどり」「竜の目の涙」など。

・北原白秋（明治18年～昭和17年）／詩人、歌人

福岡県柳川市出身。24歳で第一詩集『邪宗門』、26歳で第二詩集『思ひ出』を出版し、詩人として確固たる地位を築きました。大正7年に創刊された雑誌『赤い鳥』に参加、優れた童謡を発表するとともに、投稿童謡欄の選者を務めました。南吉も『赤い鳥』に投稿した童謡が白秋に認められ、のちに白秋門下に入っています。代表作は「待ちぼうけ」「からたちの花」「雨ふり」など。

・小川未明（明治15年～昭和36年）／小説家、童話作家

新潟県上越市出身。早稲田大学在学中に小説「漂浪児」を発表。坪内逍遙から「未明」の雅号をもらっています。浜田広介、坪田譲治らとともに児童文学界の「三種の神器」と呼ばれ、生涯に1200を超す童話を遺しました。代表作は「赤い蠟燭と人魚」「月夜と眼鏡」など。

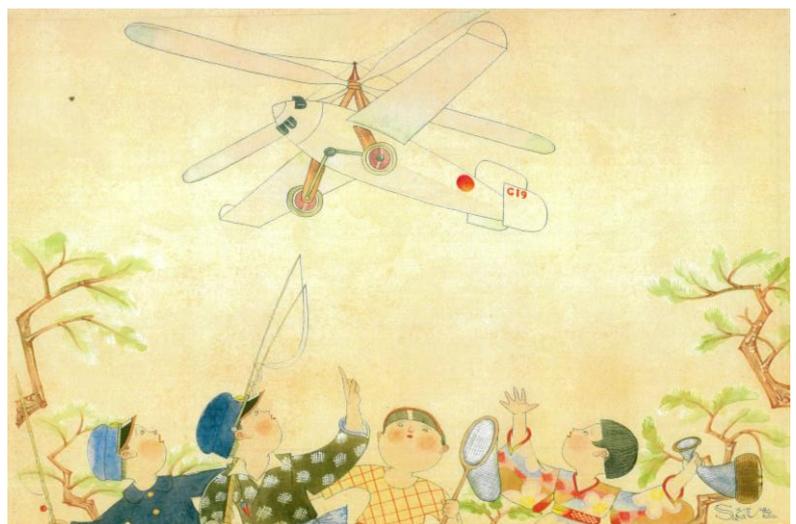
・鈴木寿雄^{としお}（明治37年～昭和50年）／童画家

東京都出身。小学校卒業後20歳のとき画家を志す。童画家川上四郎の影響を受け童画の道に進みました。戦前に出版された『龍の目の涙』（文・浜田広介）などは文部省推薦絵本になっています。のちに『キンダーブック』で「手袋を買いに」「ごんぎつね」、学研『一年の学習』で「あかいろうそく」など、新美南吉の作品にも絵を描いています。



企画展会場①

企画展会場②



↑ 挿絵原画「オートジャイロ」 画 鈴木寿雄
『カシコイ二年小学生』昭和8年5月号/
北原白秋 童謡「オートジャイロ」の挿絵

← 『カシコイ二年小学生』昭和7年12月号*創刊号